第1回学校運営協議会記録

【委員】

氏名	役職	出欠状況
渥美 建治	北区北地区民生委員・児童委員協議会副会長	出席
小泉 詔信	北24条商店街振興組合理事長	出席
杉本 五郎	北海道札幌聾学校同窓会会長	出席
只石 亜由美	北海道札幌聾学校 PTA 会長	出席
渋谷 雄幸	公益社団法人札幌聴覚障害者協会理事長	出席
高野 賢一	札幌医科大学医学部教授	欠席
船山 大介	放課後デイサービスふくろう管理者	出席
佐藤 信太郎	北海道警察札幌方面北警察署生活安全課長	出席
佐賀 聡	北海道札幌北高等学校長	出席
四木 定宏	北海道札幌聾学校長	出席

【会長及び副会長について】

会長：船山委員、副会長：佐賀委員

【学校経営に関わる意見について】

- 一人一人の能力に合わせて、力を発揮させようとする本校の取組は良い。
- 学校経営を「舟」に例えた校長の説明は、具体的で素晴らしかった。
- 委員としてできることがあれば、お手伝いしたい。

【施設見学や授業参観等に関わる意見・感想について】

- 子どもたちの活動や学習は、地域の幼稚園や小中学校とも変わらないものであった。
- 掲示物がきれいで、作文もすごくきれいな字でしっかり書かれてあった。
- 廊下に掲示されていた絵や作文などを見ると、先生方の指導が素晴らしいと感じた。
- 廊下に子どもの顔写真が付いた自己紹介の掲示があったが、とても良い取組だと感じた。
- 子どもたちが行きたくなる学校だと思った。
- 先生方が熱意をもって一生懸命指導していた。
- 1人1人の子どもの個性を引き出していると感じた。
- 校長の経営方針が職員に浸透しており、先生方が生き生きしている。それが子ども達に伝わっていると感じた。
- 教室内に学習内容を掲示する方法は、昔の聾学校の取組と変わらないと感じた。
- 保護者としても、「通わせたくなる学校」「卒業してから通わせてよかったと思える学校」を目指してほしい。

【その他の意見】

- 学校側から警察の活動に参加することもできる。例えば、犯罪抑止の啓発活動のためのポスターや工作物をつくる取組も考えられる。
- 子どもたち同士でのコミュニケーションの様子や配慮事項を知りたい。
- 子どもたちが社会人になったときに、自分の学校を「なつかしいな。」「おもしろかったな。」「よかったな。」と思えるような学校であってほしい。そのためには、先生達が働きやすい環境になるとよい。
- 先日、小学部の子どもたちと町内会と合同で近隣のゴミ拾いを行った。町内会の参加者は、本校の子どもたちから元気をもらえると喜んでいて、こうした取組を継続してもらいたい。
- 商店街の社会貢献活動の一貫として、子どもたちと一緒にアイスクャンドルを作ったり、ゲームをしたりする活動がある。また、商店街主催の音楽祭など、出演の機会など活用できるとよい。
- 本校の陸上部の練習への参加などの機会があると、お互いの子どもにとって成長できるのではないかと。
- 学校も福祉が同じベクトルで取り組めるよう、意見交流ができるとよい。